

夕方、町内の電気が1分間消え、「ゼミたより」作成中パソコンも、原因は落雷。自然の摂理に逆らえず。その昼、USJで停電騒ぎ、こちらは原因不明と  
10月13日のゼミは、斎藤幸平『人新世の「資本論」』第6章「欠乏の資本主義、潤沢なコミュニズム」を斎藤さんの報告で行いました。資本主義の発展は99%の人々に欠乏をもたらすが、コミュニズムは潤沢さを整える。水・土地というコモンは潤沢であったが、本源的蓄積はコモنزを解体し、希少性を人工的に生み出した。本来水は潤沢だか、ペットボトルの商品とされ、水道事業は民営化され利益が目的となる。ここでハーディンの共有地の悲劇に関連して、救命ボートの倫理(救命ボートに乗っているのは先進国、海に投げ出されるのは途上国)を紹介。コモنزを解体され、人々は商品世界に投げ込まれ、「奴隷制」ともいう長時間労働に陥る。商品のブランド化は絶えざる消費に駆り立てる。それが資本主義の原動力であれ、人々は幸せにならない。この悪循環から逃れる道は脱成長コミュニズムである。再生可能エネルギーの普及はエネルギーの地産地消で、コモンによる持続可能な経済への移行を促す。ワーカーズコープによる経済の民主化が福祉国家へのオルタナティブとなり、ラディカルな潤沢さを取り戻し、脱成長コミュニズムを目指す。幸福で公正で持続可能な社会に向けて、自制によって「必然の国」を縮小することが「自由の国」の拡大につながっている。討論では、米は連作可能な穀物で希少だ(水田の場合)。ラディカルとは「根本的」という意味。モンドラゴンの創始者はカトリック聖職者でその点での問題はある。脱成長はドーナツの中の人の問題、成長するかしないではなく、生活を豊かにすること。成長を何で測るのか。成長を目標としない社会:スウェーデン・デンマーク。気候変動問題は欧州では大きな運動となっているが、日本ではまだ小さく、EV化も遅れている。出席は、小野さん、川口さん、斎藤さん、竹内さん、北川さん、山口さんと高田の7名でした。

\* 11月10日ゼミで、斎藤幸平『人新世の「資本論」』が終わる予定です(報告者都合により12月ゼミで終了もあり)。次のテキストの候補本の推薦をお願いいたします。いま話題の本、あるいは是非とも読みたい・討論したい本を提案願います。できれば現物をお持ちください。

\*\*\*\*\* ゼミ日程 \*\*\*\*\*

- 10月27日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
マルクス『資本論』第3巻6編37章 緒論・前半 報告小野さん  
11月10日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
斎藤幸平『人新世の「資本論」』第7章、第8章 報告竹内さん  
11月24日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
マルクス『資本論』第3巻6編37章 緒論・後半 報告小野さん  
その後 12/8, 12/22 (アイクルの部屋), 2022/1/12, 1/26, 2/9, 2/23